

技術委員からの追加意見等及び事業者の見解

No.	区分	委員氏名	追加意見等	事業者の見解
1	1.6.5 事業計画	陸	・生ごみ処理分別回収や資源化への取り組みについて、2市1町ではどうするのか。是非統一した取り組みを実行してもらいたい。あらかじめ、農園、花壇、昆虫の飼育に使用するといった使い道まで計画して一体として取り組みを行ってほしい。	・生ごみの資源化につきましては、「ごみ処理基本計画」の中に位置づけており、家庭用生ごみ処理機器の購入補助、小中学校等で発生する給食残渣の業者委託による資源化、家庭で発生する生ごみの拠点回収及び資源化など、現在、2市1町がそれぞれの立場で取り組みを進めております。今後、2市1町でできるだけ施策の統一を図り、取り組みを拡充します。
2	1.6.5 事業計画	陸	・本年度市民を対象に行われたごみ処理方式シンポジウムの内容を教えてください。	・ごみ処理方式は専門性が高く、理解が難しいことから、識見者による講演及び住民代表との対話形式によるパネルディスカッションの2部構成により、ごみ処理方式についての理解を深める目的で、2市1町の住民を対象にシンポジウムを開催しました。
3	1.6.5 事業計画	中村（寛）	・当事業の目的は効率的にごみ処理を行うということだが、どのような評価で効率的となるのか。	・共同で新施設を建設し処理を集約することで、2市1町の施設がそれぞれ行うよりも環境対策を効率的にでき、他の2施設を廃止できるため、コストを削減できることが挙げられます。 ・また、準連続式の施設から全連続運転方式(24時間稼働)とすることにより、ダイオキシン類対策等に、より環境へ配慮したものになると考えます。
4	1.6.5 事業計画	中村（寛）	・地元住民が反対に回った経緯を教えてください。特に大きな反対運動があったのかどうか。	・計画当初、地元住民から建設容認を表明をいただいておりますが、2市1町の行政間の調整が遅れたことが原因となり、反対の表明がされました。しかしながら、その後の行政からの要請に対し、平成22年度末に地元地区から改めて事業への協力が表明され、2市1町で確認事項の合意に至りました。
5	1.6.5 事業計画	中村（寛）	・現在の清掃工場を残す手立ては考えられなかったのか。	・個々の施設の大規模な改造や長寿命化を含めて検討を行う中で、平成15年度に2市1町のごみ処理を共同化する方針を決定し、それぞれの施設の老朽化に伴う更新をまとめて行うこと、環境への影響の少ない最新の施設を建設すること等を想定して計画を進めてきました。 また、建設候補地を検討する中で、計画している処理規模施設の建設を考えると、現施設にかかる配置となってしまうことから、施設を新たに整備する計画としております。

No.	区分	委員氏名	追加意見等	事業者の見解
6	1.6.5 事業計画	中村（寛）	・現施設の解体、撤去について、アスベスト類などの現段階でどこの部分を行うかわかっているか。	・岡谷市清掃工場では、飛散性のアスベストは使用されておりませんが、一部にアスベストを含む建材（ビニール床タイル、内外装のセメント板等）が使用されていることから、解体に先立って資料調査や分析により確認します。
7	1.6.5 事業計画 3.2.8 地形・地質	陸	・対象事業実施区域は土石流警戒区域中にあり、豪雨などがあった場合の排水対策などの対応を考慮しておいた方がよいのではないか。調査はどのように考えているか。	・方法書のp193のとおり、ボーリング調査や地質図などの既存資料をもとに、土石流警戒区域などの危険箇所、災害危険地域の分布を含めて地形・地質の分布状況を整理するとともに、豪雨時の排水対策の要否については雨水排水経路の調査結果を踏まえて、検討します。
8	3.1.2 選定の理由	中村（寛）	・供用時の調査で水質・水象を調査対象からはずしたのは、確実に敷地内で処理することが決定しているからか。確認等の調査はやらなくてよいか。	・現施設での排水は敷地内処理をしており、新施設についても同様の処理を行うことから、供用時の水質・水象は調査対象からはずしております。
9	3.2.2 騒音 3.2.3 振動	陸	・今後、電気自動車や低燃費の収集車が出てくると考えられるが、調査の予測・評価はどのような車両を想定しているか。	・資料1のNo.16と同様の見解です。
10	3.2.4 低周波音	塩田	・方法書p180(1)1) …「低周波音の暗騒音レベル設定」とあるのは、「…影響予測における低周波音圧レベルを設定するために、現状の低周波音圧レベルを把握する。」の意味か？	・ご意見のとおりです。
11	3.2.4 低周波音	塩田	・方法書p181(3)2)イ) 「低周波騒音レベル」とあるが、「低周波音圧レベル」に修正してはどうか。（用語の統一が必要）	・「低周波音圧レベル」に統一します。
12	3.2.9 植物 3.2.10 動物 3.2.11 生態系	中村（寛）	・特定の動物・植物をターゲットとして詳しく調査していくなどの方針はあるか。	・文献調査及びヒアリング調査の結果から、猛禽類（ワシタカ類、フクロウ類）については、生息の可能性が考えられることから、調査範囲を広げるとともにより詳しい調査を行います。 ・その他の動植物については、文献調査及びヒアリング調査の結果から標準的な調査時期、手法により調査します。
13	3.2.11 生態系	中村（寛）	・生態系に関しては、新施設は24時間連続運転となるので、夜間照明の影響を考慮して欲しい。	・方法書のp202のとおり、施設の設計や保全対策に基づき、夜間の場内照明による植物、動物、生態系への影響を予測・評価します。

No.	区分	委員氏名	追加意見等	事業者の見解
14	3.2.12 景観	中村（寛）	・景観については、あらかじめイメージのシミュレーションできるので、設計段階でチェックすべきではないか。	・設計の段階でシミュレーションを行い、課題等について設計にフィードバックします。
15	3.2.12 景観	陸	・解体工事期間中は評価しないということだが、囲いをするなど景観への配慮や評価は行わないのか。簡略化の部分でよいので調査してほしい。	・解体工事及び建設工事中は、工事範囲の境界に仮囲いを行い、騒音の低減や粉じんの飛散対策を実施するとともに景観対策についても配慮します。
16	3.2.12 景観	陸	・景観については誰が判断するのか、が重要になる。例えば、やまびこ公園が近隣にあるので、アンケート調査を行うなど、多くの人の声を反映させるようにしてほしい。	・景観の評価においては、できるだけ多くの方の意見を反映させます。